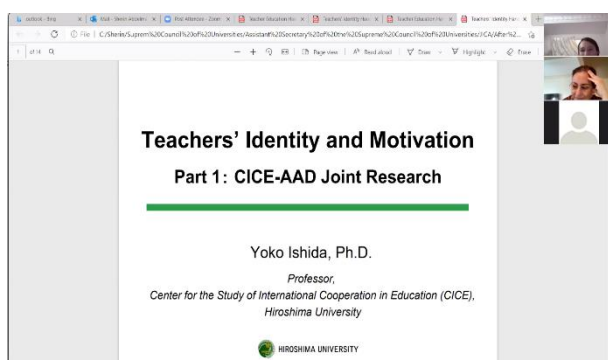


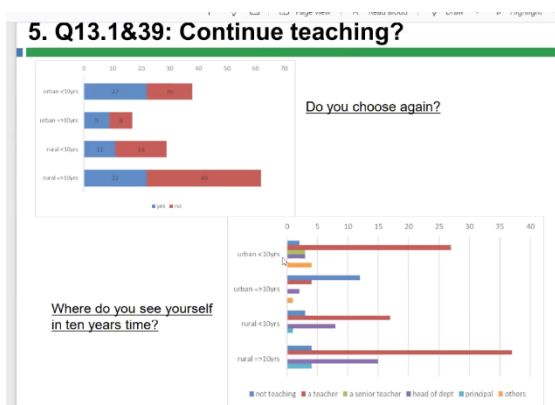
2月4日（木）

本日のJICA研修では「日本の教師教育における政策と評価」についての講義を踏まえたディスカッションが行われました。

日本では現在、より実践的な教員養成のカリキュラムとして初任者研修や教職大学院が設置されています。これを踏まえて、参加者の国における教師教育制度についての意見共有が行われました。例えばある研修員の国では、4年間大学における教職課程を経て教員採用試験に合格した後、1年間の実践的なカリキュラムに従事し、その後は期限なしの教員免許が交付され、希望のポジションに配属されるそうです。



次に「教師のアイデンティティとモチベーション」に関する議論も行われました。そこでは、下記図がピックアップされ、話し合いが行われました。



図では教師の勤続年数や勤務地（都会・田舎）によって「もう一度教師を選択するか」「今後10年でどのポジションにいたいと思うか」といった問いに対する回答の割合が大きく異なるという特徴が見られる点について、「なぜこのような現象が起きるのか?」、「本ディスカッションでは10年教師を経験する間に、家庭を持ったり職場での責任が増加したりと、環境が変化する中で、教師という職業の位置付けが変化するのはないか」などの指摘がありました。

	Schools	Students (thousands)			Teachers				Admin. Staff (Full-time)	
		Total	Male	Female	Total	Full-time		Part-time		
					Total	Male	Female			
Primary (public)	20,601 (20,302, 98.5%)	6,543	3,347	3,196 (48.8%)	454,897	417,152	157,127	260,025 (62.3%)	37,845	70,804
Lower Sec.	10,484 (9,637, 91.9%)	3,485	1,773	1,692 (48.8%)	296,433	253,704	145,162	108,542 (42.8%)	42,729	30,745
Upper Sec.	4,939 (3,604, 73.0%)	3,319	1,671	1,648 (49.6%)	307,705	234,970	161,379	73,591 (31.3%)	72,735	45,683

